**ハンドマイク街頭演説原稿例　　コロナ対策・汚染水海洋放出**

　　二〇二一年四月一二日　日本共産党埼玉県委員会・作成

　ご近所のみなさん、日本共産党です。本日はこの場所をお借りして、日本共産党の政策を訴えさせていただきます。しばらくの間ご協力をお願いいたします。

　みなさん、緊急事態宣言が解除されてひと月も立たないうちに、全国的に感染急が拡大し、コロナ感染の「第４波」ともいうべき事態となっています。高齢者へのワクチン接種も始まりましたが、国民への接種は他の国ぐにと比べてきわめて遅れています。このままでは、変異株が猛威を振るい、国民の命とくらしにとりかえしのつかない重大な事態を招きかねません。いま政府がやるべきことは、一日１０万件以上のモニタリング検査など大規模検査を本気で実行すること、時短営業を強いられている飲食店への規模に応じた補償や持続化給付金の再支給など十分な補償をおこなうことです。さらに、医療機関へ減収補てんともに、コロナ病床を確保するための財政的な手立て、病院間の連携の手立てなどあらゆる手立てを国の責任でとることは急務となっています。さらに、感染拡大で聖火リレーすらできなくなるもとで、国民の命をギャンブルにさらす東京五輪・パラリンピックはただちに中止を決断し、すべての力をコロナ就職に集中すべきです。日本共産党は、コロナ対策を最優先に国民の命とくらしを守るために引き続き全力をつくします。

　みなさん、感染再拡大で医療崩壊が深刻な問題となるなか、いま二つの重大な医療改悪法案が国会で審議されています。一つは、公立・公的病院の再編統合や高度急性期病床を２０万床減らす「病床削減推進法案」、もう一つは、７５歳以上の高齢者の医療費負担を１割から２割に引き上げる「高齢者医療費２倍化法案」です。埼玉県は、医師数・病床数とも全国で最下位にもかかわらず、急性期病床を７３００床以上も減らす計画となっています。ただでさえ少ない病床をさらに減らすなど、決して認められません。新型コロナ感染拡大の前に立てた削減計画は白紙撤回するとともに、自治体や病院が新型コロナ対応に集中できるよう国の支援を強く要求していきます。さらに、高齢者へのペナルティーともいうべき高齢者の窓口負担の引き上げは中止・撤回するよう強く求めます。生きることを励し、安心して老後を迎えられる社会をつくるためにご一緒に声をあげていきましょう。

　みなさん、菅政権は福島第一原発事故で増え続ける汚染水を海洋に放出する方針を決定します。福島だけでなく、宮城や岩手を含めた東北全体の沿岸漁業に携わる方々からは、海洋放出の方針に強い反対の声が上がっています。東日本大震災で大きな痛手を負った東北の沿岸漁業はいまでも回復できず、近年の大不漁とコロナも直撃し、まさに三重苦ともいうべき状況が続いています。日本共産党は、東北の沿岸漁業を破壊する汚染水の海洋放出に断固反対し、方針の撤回を政府に強く求めていきます。

　みなさん、来る５月２日、日曜日、午後２時より、日本共産党オンライン演説会をユーチューブで配信いたします。メイン弁士は、小池晃書記局長・参院議員です。「ユーチューブ　共産党北関東」と検索し、この機会にぜひご視聴ください。よろしくお願いします。

最後に、スクープ連発の「しんぶん赤旗」が、いま広く注目されています。この機会に「しんぶん赤旗」をぜひご購読いただきますようお願いしまして、この場所をお借りしての訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。（了）